

今期業況天気図

今期業況天気図

期間：令和8年4月～6月（売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較）

全業種総合の天気図は「小雨」で、総合業況DIは▲24と、前期▲19から悪化した。

業種別では、小売業・卸売業が▲21（前期5ポイント増）と改善した。飲食業・サービス業が▲20（前期差3ポイント減）と小幅の減少、建設業は▲24（前期差10ポイント減）と製造業は▲33（前期差10ポイント減）は大幅な減少となった。

前期増加していた建設業、製造業で、急激にDIが下落した一方、小売業・卸売業で業況が改善した。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲ 11	▲ 20	▲ 19	▲ 11	▲ 3
採算	▲ 29	▲ 35	▲ 30	▲ 27	▲ 25
仕入単価	▲ 65	▲ 76	▲ 78	▲ 74	▲ 50
販売単価	16	21	16	26	9
従業員	26	24	38	21	22
資金繰り	▲ 19	▲ 23	▲ 13	▲ 22	▲ 19
今期業況 (総合判断)	▲ 24	▲ 33	▲ 24	▲ 21	▲ 20
今期業況 天気図					

業況天気図凡例					<<景気観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。
快晴  DI値 31以上	晴れ  DI値 30～11	薄曇り  DI値 10～▲10	小雨  DI値 ▲11～▲30	雨  DI値 ▲31以下	

参考）今期業況天気図の推移

	全産業	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
3四半期前 令和7年7月～ 9月期					
2四半期前 令和7年10月～ 12月期					
1四半期前 令和8年1月～ 3月期					
今期 令和8年4月～ 6月期					

今期業況天気図

今期業況天気図(小規模事業者)

(商業・サービス業従業員5名以下、その他の業種20名以下)

期間: 令和8年4月～6月(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較)

小規模事業者のみの全業種総合のDIは▲31(前期差4ポイント減)で天気図は「雨」。

飲食業・サービス業は▲30(前期差2ポイント減)、小売業・卸売業は▲40(前期差2ポイント減)で前期からほぼ変わらなかった。建設業は▲24(前期差7ポイント減)、製造業は▲37(前期差8ポイント減)でいずれも悪化した。製造業と建設業が前期の小雨→今期の雨に急速に悪化した。小売業・卸売業と飲食業・サービス業はほぼ前期並みであった。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲25	▲31	▲20	▲31	▲22
採算	▲35	▲40	▲29	▲42	▲33
仕入単価	▲66	▲79	▲81	▲75	▲44
販売単価	8	11	11	25	▲3
従業員	19	18	34	5	13
資金繰り	▲25	▲29	▲15	▲33	▲26
今期業況(総合判断)	▲31	▲37	▲24	▲40	▲30
今期業況 天気図					

今期業況天気図(小規模事業者以外の中小企業)

期間: 令和8年4月～6月(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較)

全業種総合のDI値は▲12(前期差5ポイント減)と小幅の減少で、天気図は「小雨」となった。

小売業・卸売業は、5(前期差16ポイント増)は大幅に改善し、DI値はプラスに転じた。飲食業・サービス業は▲8(前期差5ポイント減)とやや悪化した。製造業は▲26(前期差12ポイント減)、建設業は▲24(前期差24ポイント減)となり、大幅な減少であった。

中小企業では、小規模事業者同様、製造業と建設業でDIが減少し、特に建設業は前期の曇りから小雨に悪化した。小売業は逆に好調でDI値が小雨→曇りとなりプラスに転じた。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	11	▲4	▲12	18	21
採算	▲18	▲27	▲32	▲8	▲14
仕入単価	▲63	▲71	▲60	▲73	▲56
販売単価	29	36	40	28	23
従業員	37	33	56	43	33
資金繰り	▲10	▲15	0	▲8	▲10
今期業況(総合判断)	▲12	▲26	▲24	5	▲8
今期業況 天気図					

業況天気図凡例				
 快晴 DI値 31以上	 晴れ DI値 30～11	 薄曇り DI値 10～▲10	 小雨 DI値 ▲11～▲30	 雨 DI値 ▲31以下

<<景気観測調査>>
前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。
「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。

次期見通し天気図

次期見通し業況天気図

令和8年7月～9月見込(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

全産業の次期見通しの天気図は、▲26(今期差2ポイント減)で、天気図は「小雨」の見込み。
産業別にみると、製造業は▲32(今期差1ポイント増)、飲食業・サービス業は▲21(今期差1ポイント減)と今期並みの見込み。小売業・卸売業は▲24(今期差3ポイント減)で若干の減少の予想である。建設業は▲30(今期差6ポイント減)は今期以上の減少となる見込みである。

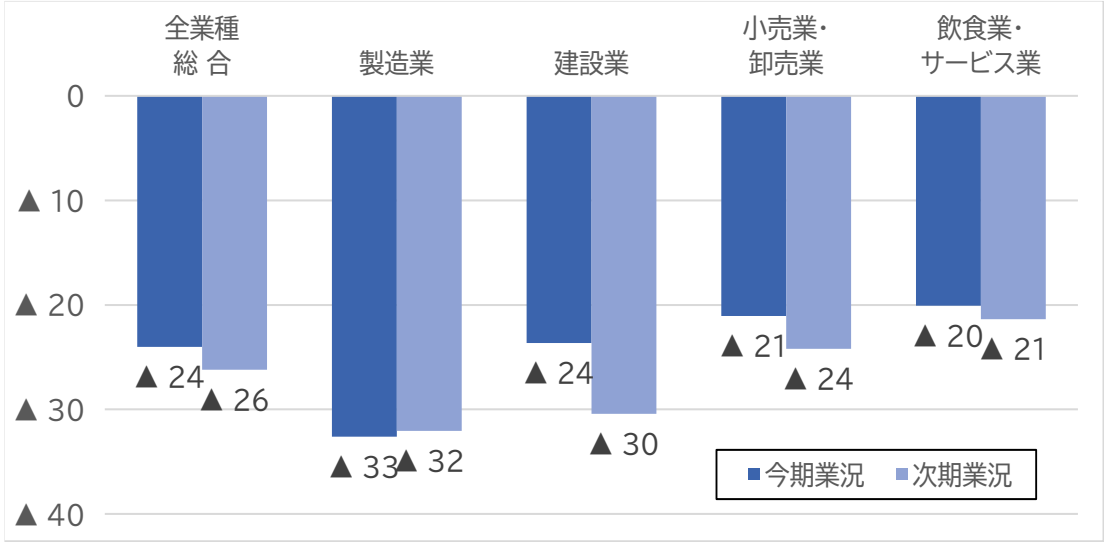
	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲ 13	▲ 18	▲ 23	▲ 17	▲ 5
採算	▲ 28	▲ 32	▲ 30	▲ 35	▲ 21
仕入単価	▲ 56	▲ 68	▲ 67	▲ 62	▲ 42
販売単価	10	12	9	16	7
従業員	23	20	35	20	21
資金繰り	▲ 19	▲ 23	▲ 20	▲ 21	▲ 16
次期業況 (総合判断)	▲ 26	▲ 32	▲ 30	▲ 24	▲ 21
次期業況 天気図					

業況天気図凡例

 快晴 DI値 31以上	 晴れ DI値 30～11	 薄曇り DI値 10～▲10	 小雨 DI値 ▲11～▲30	 雨 DI値 ▲31以下
---	--	--	--	---

<<景気観測調査>>
前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。
「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。

参考) 今期と次期の業況DI



次期見通し天気図

次期見通し業況天気図(小規模事業者)

(商業・サービス業従業員5名以下、その他の業種20名以下)

令和8年7月～9月見込(売上・採算・資金繰り・仕入単価・販売単価・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

全産業の次期見通しは▲34(今期差3ポイント減)で、天気図は「雨」になる見込み。

産業別にみると、飲食業・サービス業は▲29(今期差1ポイント増)、小売業・卸売業は▲42(今期差2ポイント減)と今期からあまり変わらない予想である。建設業は▲28(今期差4ポイント減)と小幅の悪化、製造業は▲45(今期差8ポイント減)と引き続き減少の見込みである。

製造業と建設業は今期より更に悪化が続く予想で、それらの業種の減少により、全業種の総合判断も若干の悪化となる見込みである。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲25	▲36	▲21	▲42	▲15
採算	▲33	▲44	▲27	▲55	▲25
仕入単価	▲58	▲73	▲68	▲65	▲38
販売単価	3	6	5	13	▲3
従業員	17	14	30	5	13
資金繰り	▲24	▲31	▲20	▲29	▲21
次期業況(総合判断)	▲34	▲45	▲28	▲42	▲29
次期業況 天気図					

次期見通し業況天気図(小規模事業者以外の中小企業)

令和8年7月～9月見込(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

全産業の次期見通しは、▲13(今期差1ポイント減)で、天気図は「小雨」の予測。

産業別にみると、製造業は▲12(今期差13ポイント増)と回復を見込む。今期好調だった小売業・卸売業は±0(今期差5ポイント減)、飲食業・サービス業は▲12(今期差4ポイント減)で小幅の悪化の予想である。建設業は▲44(今期差20ポイント減)と大幅に悪化する見込みである。

今期減少した製造業は回復に向かう予想だが、建設業は更に悪化する見込みである。

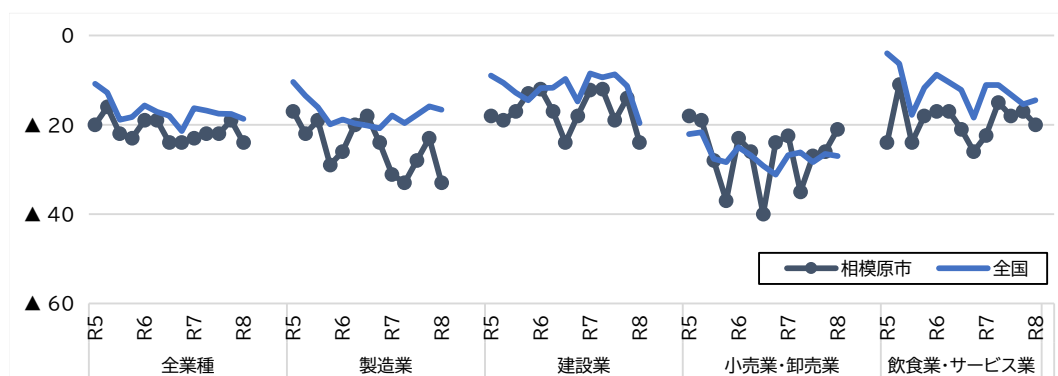
	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	6	10	▲32	18	8
採算	▲18	▲15	▲48	▲8	▲17
仕入単価	▲53	▲60	▲60	▲58	▲47
販売単価	21	22	28	20	20
従業員	34	30	60	40	30
資金繰り	▲11	▲11	▲20	▲10	▲10
次期業況(総合判断)	▲13	▲12	▲44	0	▲12
次期業況 天気図					

業況天気図凡例					<<景気観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。
快晴  DI値 31以上	晴れ  DI値 30～11	薄曇り  DI値 10～▲10	小雨  DI値 ▲11～▲30	雨  DI値 ▲31以下	

業況DI(前年同期比)の推移

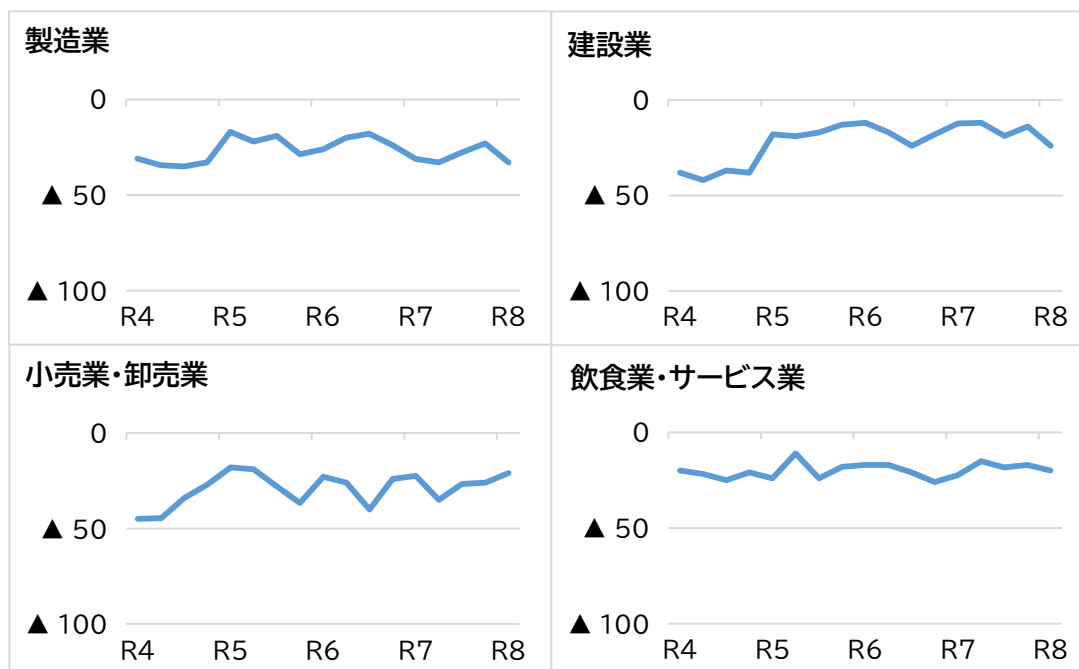
全産業の業況DIは、今期は▲24(前期差▲5ポイント)で、若干の悪化であった。
 産業別にみると、小売業・卸売業は▲21で改善した。飲食業・サービス業は▲20と若干の悪化。建設業は▲24、製造業は▲33といずれも大幅に減少した。
 全国と比較すると、製造業では全国よりかなり低い状況が続いている。小売業・卸売業では全国の水準を上回った。

(令和5年4-6月期～令和8年4-6月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「業況判断DI」を使用。
 ※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用
 ※業況DIについて、当所では「総合判断」、中小企業庁は「業況(自社)」を質問項目としている

参考)業況DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



業況DI(特徴的なトピックス)

産業別に寄せられた特徴的なトピックスは以下のとおりである。

【製造業】

- ・イラン問題により材料入手困難。【プリント基板】
- ・半導体設備関連を取り扱っている客先は好調の様です。【レーザー溶接】
- ・採算悪化傾向により設備投資ができない。老朽化した設備を修理しながら使用しているため、効率化の改善も難しい状況。【建設機械製品(シールド機、スチールセグメントほか)】
- ・有機溶剤など原料がナフサ由来の製品の入手が困難であることから、製品製造への影響あり。【電力機器、配電機器、制振・制音デバイス、精密デバイス】
- ・仕入単価の向上、原材料の出荷制限。【化粧品製造業】
- ・大手取引先の受注は継続的に減少傾向で、新規の取引先は需給の波が大きい。人件費の割合が大きいので、継続的な賃上げは維持しているが収益率がなかなか上がらない。【各種製品の加工、検査及び包装】

【建設業】

- ・従業員を増やせれば、売上も増加させられるだけの引合いはあり、景気は良い方向だと考える。【電気工事業】
- ・案件の着工延期や失注が増えている。【大工工事業】
- ・中東情勢により建築資材の調達不能による工事の中止・延期が経営に大打撃を与えている。【建築物の新築、増改築工事の設計監理・施工管理請負業務】
- ・人材不足が顕著、単価の引上げが難しい。【造園業】
- ・コロナ過に低利で目いっぱい借り入れが出来たため資金繰りは問題ないが資材等の値上がりが元請けの発注単価に反映されるのに間に合っていない。それが施工費を圧迫していて、従業員や下請け職方の賃上げが出来ない。【建設業】

【小売業・卸売業】

- ・5月はさがみはらキャンペーンのおかげで持ち直したが、資材関連の入荷が滞っており、現場の方々に材料の提供ができない品物がある。【資材、雑貨、食品】
- ・前期と比較して微増ながら増収増益です。【自動車用品】
- ・品不足、注文した商品がほとんど欠品のことが多い。販売価格の上昇。【小売業】
- ・仕入れ価格の高騰とお客様の買い渋り。【スポーツ用品】

【飲食業・サービス業】

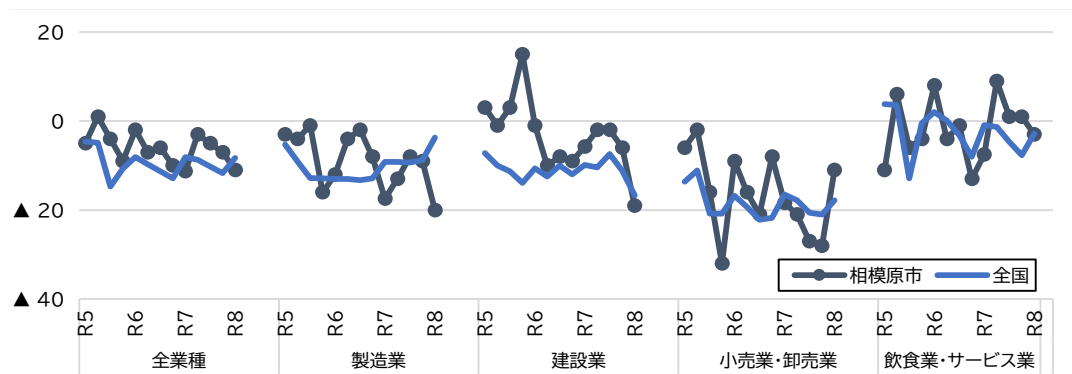
- ・新規顧客の来場が多くなってきた。【ゴルフショートコース運営】
- ・AIの市況、著作権周りの法律の整備への期待。【写真撮影、動画撮影】
- ・相続案件が多く、時間がかかる。【不動産仲介】
- ・サブスク費用の高額化で収益が圧迫されています。【VRアプリ開発、デザイン作成】
- ・労働者の労働意欲(お金を貪欲に求める姿勢)が下がってきている。【居酒屋】
- ・お客様はAIで調べている事。【整体院で整体の施術・ダイエットサポート】
- ・物価高であること、資材不足による納期の見込みが読めないこと、借入金利が上昇していること、これらを商品価格に転嫁しても物価上昇で消費者の購入マインドが低下していることで事業者としては厳しい時期となっております。【不動産】

売上DI(前年同期比)の推移

全産業の売上DIは、▲11(前期差4ポイント減)と若干減少した。
産業別にみると、前期DIが低かった小売業・卸売業が▲11と大幅に改善した。飲食業・サービス業が▲3であり動きは無かった。建設業は▲19、製造業は▲20と前期から大きく悪化した。

全国と比較すると、小売業・卸売業は全国の水準をかなり上回った。製造業は全国が改善傾向にあるが、当市では大きく減少した。

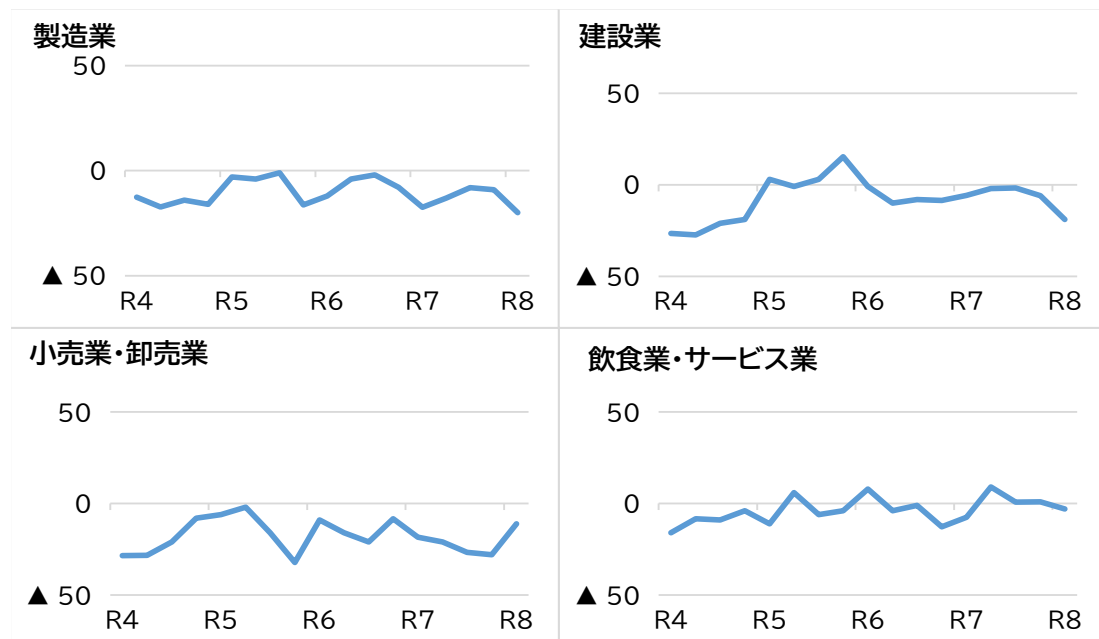
(令和5年4-6月期～令和8年4-6月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「売上額DI」を使用。

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

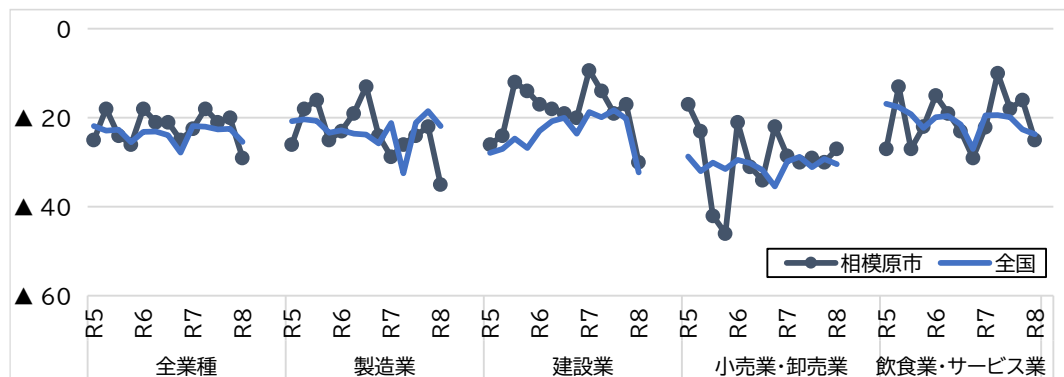
参考) 売上DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



採算DI(前年同期比)の推移

全産業の採算DIは、▲29(前期9ポイント減)で、減少した。
産業別にみると、小売業・卸売業は▲27と前期並みであったが、飲食業・サービス業は▲25、建設業は▲30、製造業は▲35と大幅な減少となった。
全国と比較すると、売上DI同様、製造業が全国よりもかなり低い水準となっている。

(令和5年4-6月期～令和8年4-6月期、前年同期比)

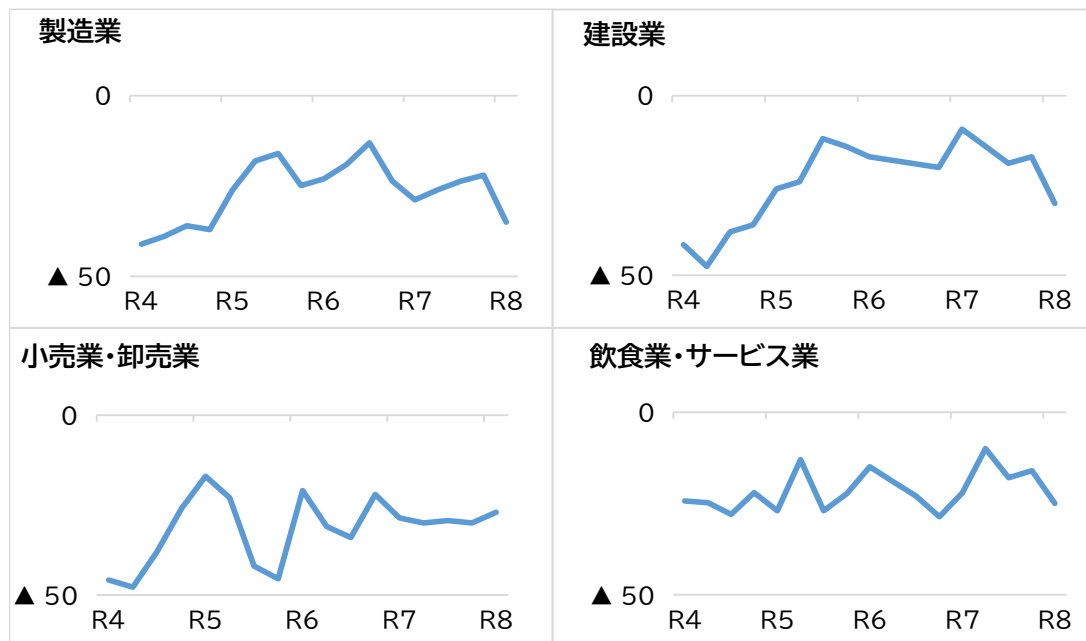


※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※採算DIについて、当所では「採算」、中小企業庁は「経常利益」を質問項目としている

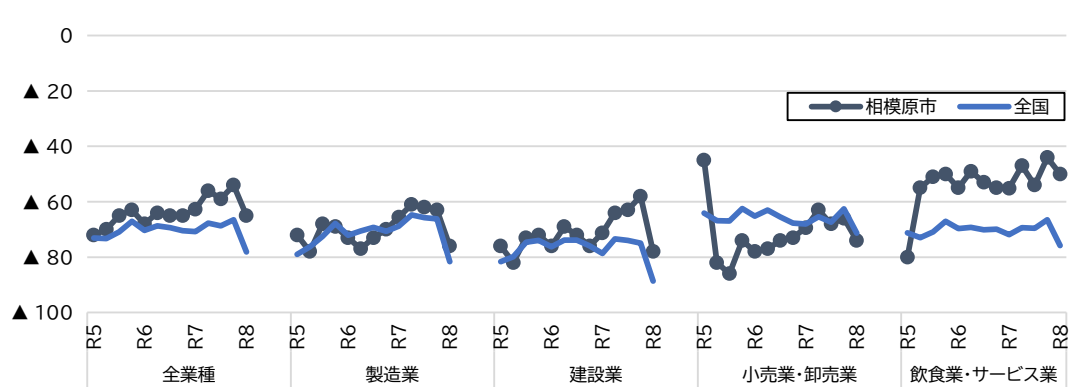
参考) 採算DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



仕入単価DI(前年同期比)の推移

全産業の仕入単価DIは▲65(前期差11ポイント減)で、大きく悪化した。
産業別にみると、飲食業・サービス業が▲50、小売業・卸売業は▲74、製造業が▲76、建設業が▲78といずれの業種も減少したが、特に製造業と建設業の落ち込みが大きかった。
全国と比較すると、飲食業・サービス業で全国よりかなり高い水準が続いている。

(令和5年4-6月期～令和8年4-6月期、前年同期比)



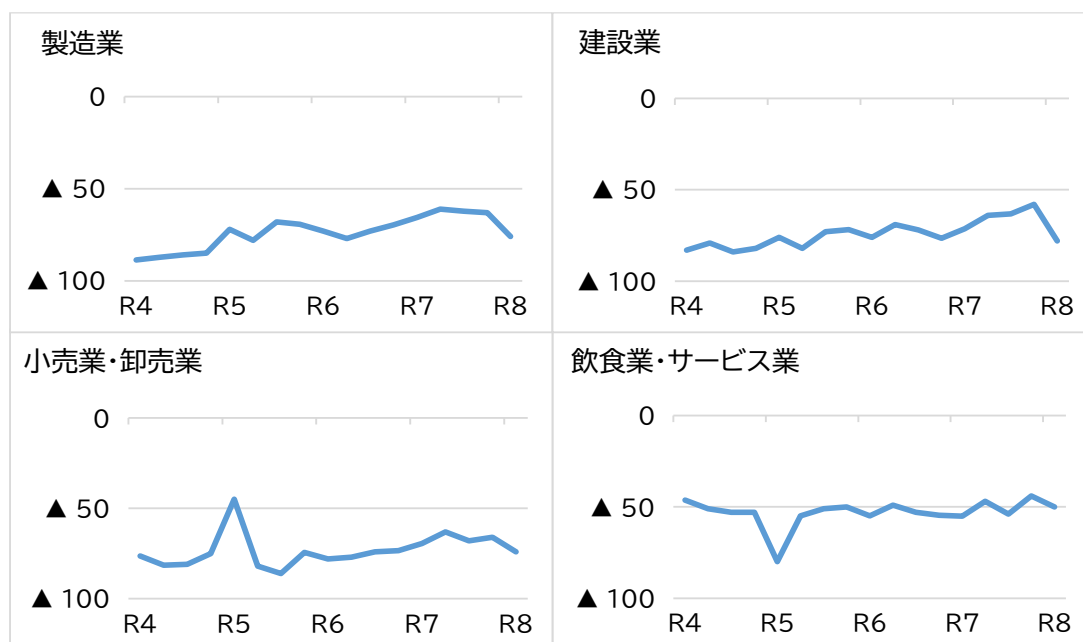
※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「原材料・商品仕入単価DI」を使用。

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※仕入単価DIについて、当所では「DI=下落—上昇、中小企業庁は「上昇—低下」で算出。

比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

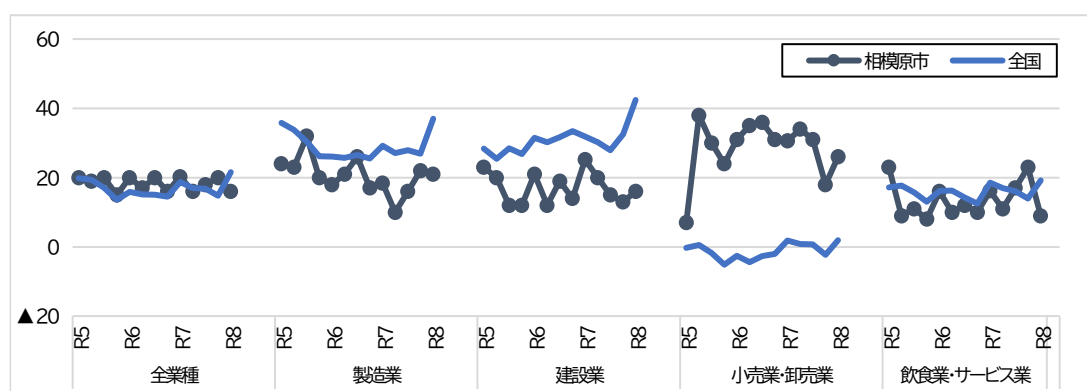
参考) 仕入単価DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



販売単価DI(前年同期比)の推移

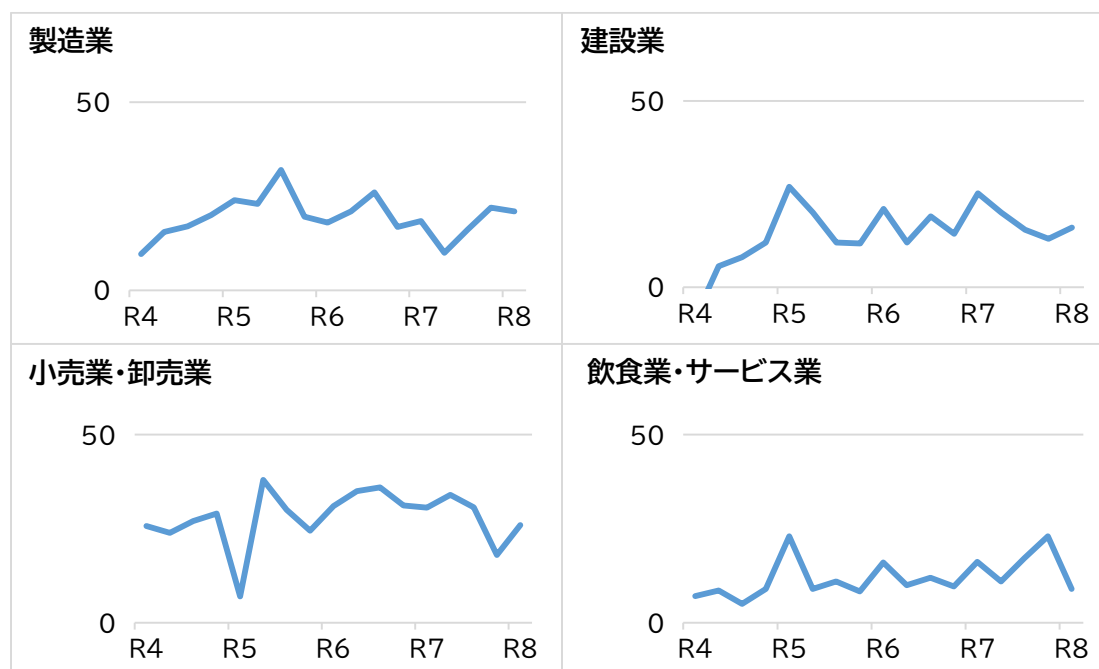
全産業の販売単価DIは、16(前期差4ポイント増)と、小幅の増加であった。
産業別にみると、小売業・卸売業が26と増加し、建設業も16と小幅の増加であった。製造業は21と前期並みで、飲食業・サービス業は9と大きな減少となった。
全国と比較すると、製造業と建設業は全国よりも低い水準が続いている。小売業・卸売業は、全国よりもかなり高い状態が続く。

(令和5年4-6月期～令和8年4-6月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「販売単価・客単価DI」を使用。
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用
※建設業については、全国値は日本商工会議所「早期景気観測商工会議所LOBO／建設業令和8年6月」分類の値を使用

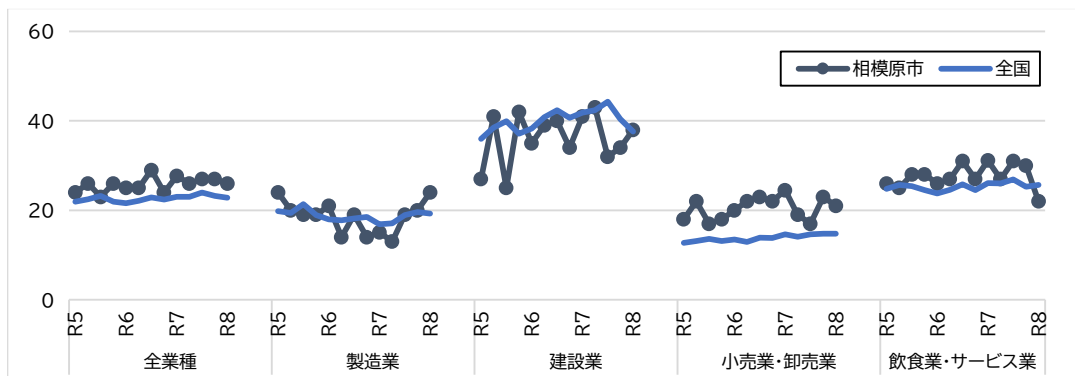
参考) 販売単価DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



従業員DI(前年同期比)の推移

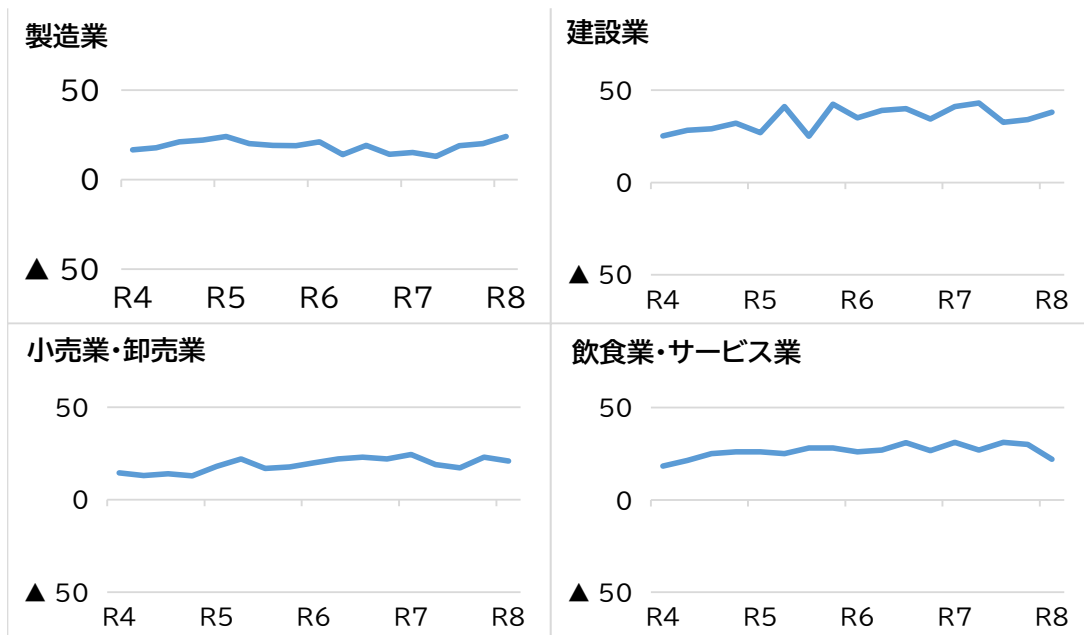
全産業の従業員DIは、26(前期差1ポイント減)と、前期並みであった。
産業別では、建設業は38、製造業は24と増加した。小売業・卸売業が21と前期並で推移した。飲食業・サービス業は22とやや減少した。
全国と比較すると、製造業と小売業・卸売業で当市の方が、人手不足感が増しているようである。

(令和5年4-6月期～令和8年4-6月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「従業員数過不足DI」を使用。
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用
※従業員DIについて、当所では「前年同期比」、中小企業庁は「今期の水準(過去との比較ではない)」を調査
※従業員DIについて、当所では「DI=不足ー過剰、中小企業庁は「過剰ー不足」で算出。
比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

参考) 従業員DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



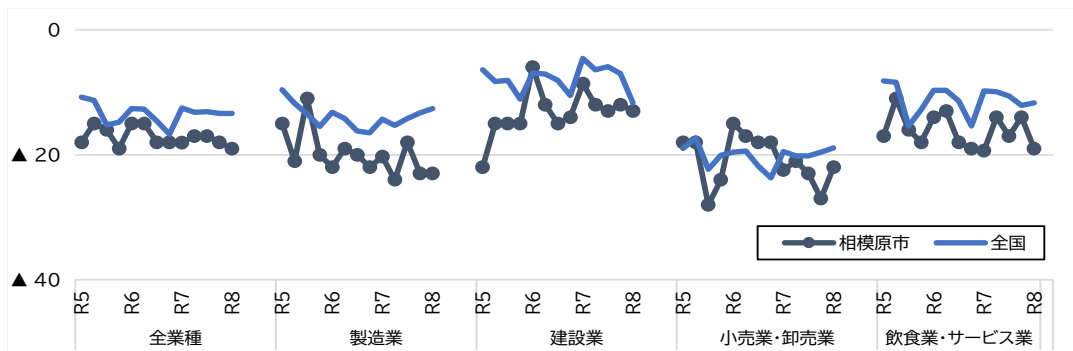
資金繰りDI(前年同期比)の推移

全産業の資金繰りDIは、▲19(前期差▲1ポイント減)で、ほぼ横ばいだった。

産業別にみると、小売業・卸売業は▲22と増加した。製造業は▲23と前期と同じであった。建設業は▲13で前期並み、飲食業・サービス業は▲19と減少した。

全国と比較すると、製造業と飲食業・サービス業で、全国より低い水準が続いている。

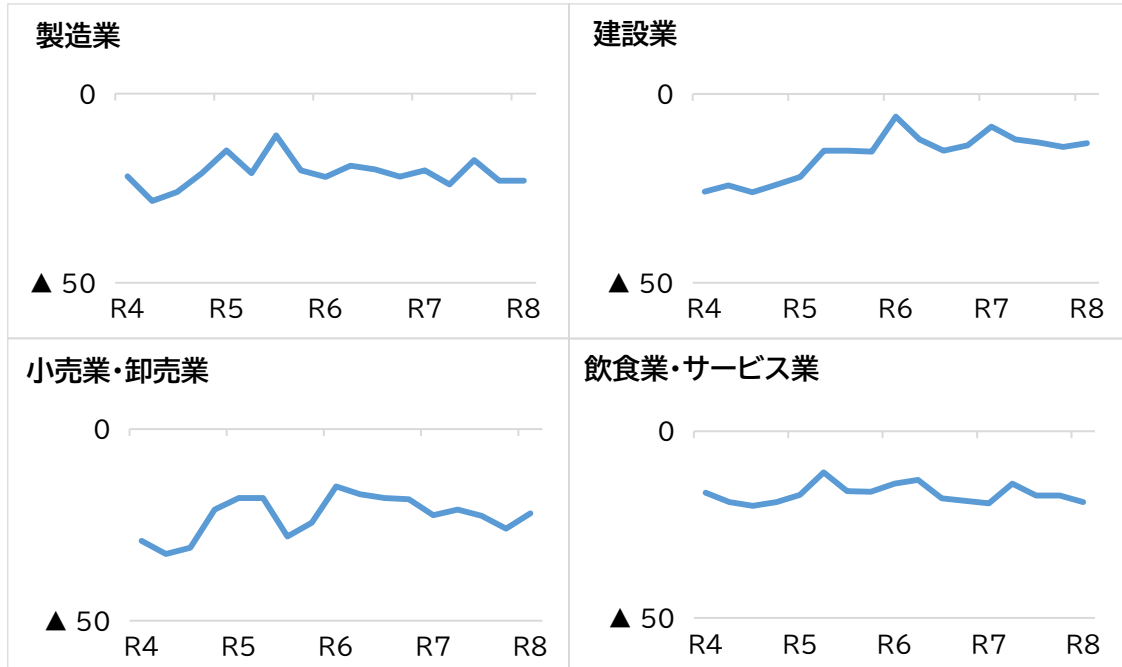
(令和5年4-6月期～令和8年4-6月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

参考) 資金繰りDI(前年同期比)の長期推移(業種別)



集計表(景気観測調査)

			今期(R8.4~R8.6)				次期見通し(R8.7~R8.9)			
			売上:増加 採算:資金、総 合:好転 仕入:下落 販売:上昇 従業員:不足	不変	売上:減少 採算:資金、総 合:悪化 仕入:上昇 販売:下落 従業員:過剰	合計/DI値	売上:増加 採算:資金、総 合:好転 仕入:下落 販売:上昇 従業員:不足	不変	売上:減少 採算:資金、総 合:悪化 仕入:上昇 販売:下落 従業員:過剰	合計/DI値
製造業	売上	サンプル数	42	61	78	181	36	77	68	181
		構成比	23	34	43	▲ 20	20	43	38	▲ 18
	採算	サンプル数	22	74	85	181	22	79	80	181
		構成比	12	41	47	▲ 35	12	44	44	▲ 32
	仕入単価	サンプル数	13	18	150	181	11	36	134	181
		構成比	7	10	83	▲ 76	6	20	74	▲ 68
	販売単価	サンプル数	57	105	19	181	43	117	21	181
		構成比	31	58	10	21	24	65	12	12
	従業員	サンプル数	51	122	8	181	48	122	11	181
		構成比	28	67	4	24	27	67	6	20
建設業	売上	サンプル数	8	123	50	181	9	121	51	181
		構成比	4	68	28	▲ 23	5	67	28	▲ 23
	業況	サンプル数	16	90	75	181	18	87	76	181
		構成比	9	50	41	▲ 33	10	48	42	▲ 32
	採算	サンプル数	29	62	57	148	20	74	54	148
		構成比	20	42	39	▲ 19	14	50	36	▲ 23
	仕入単価	サンプル数	17	70	61	148	10	83	55	148
		構成比	11	47	41	▲ 30	7	56	37	▲ 30
	販売単価	サンプル数	7	19	122	148	7	35	106	148
		構成比	5	13	82	▲ 78	5	24	72	▲ 67
小売業・卸売業	売上	サンプル数	40	92	16	148	34	93	21	148
		構成比	27	62	11	16	23	63	14	9
	従業員	サンプル数	59	86	3	148	56	88	4	148
		構成比	40	58	2	38	38	59	3	35
	資金繰り	サンプル数	11	107	30	148	4	111	33	148
		構成比	7	72	20	▲ 13	3	75	22	▲ 20
	業況	サンプル数	16	81	51	148	9	85	54	148
		構成比	11	55	34	▲ 24	6	57	36	▲ 30
	売上	サンプル数	27	31	37	95	23	33	39	95
		構成比	28	33	39	▲ 11	24	35	41	▲ 17
飲食業・サービス業	採算	サンプル数	15	39	41	95	14	34	47	95
		構成比	16	41	43	▲ 27	15	36	49	▲ 35
	仕入単価	サンプル数	2	21	72	95	5	26	64	95
		構成比	2	22	76	▲ 74	5	27	67	▲ 62
	販売単価	サンプル数	40	40	15	95	35	40	20	95
		構成比	42	42	16	26	37	42	21	16
	従業員	サンプル数	22	71	2	95	21	72	2	95
		構成比	23	75	2	21	22	76	2	20
	資金繰り	サンプル数	7	60	28	95	6	63	26	95
		構成比	7	63	29	▲ 22	6	66	27	▲ 21
全業種総合	売上	サンプル数	14	47	34	95	12	48	35	95
		構成比	15	49	36	▲ 21	13	51	37	▲ 24
	採算	サンプル数	74	153	82	309	62	170	77	309
		構成比	24	50	27	▲ 3	20	55	25	▲ 5
	仕入単価	サンプル数	34	164	111	309	30	183	96	309
		構成比	11	53	36	▲ 25	10	59	31	▲ 21
	販売単価	サンプル数	13	130	166	309	12	155	142	309
		構成比	4	42	54	▲ 50	4	50	46	▲ 42
	従業員	サンプル数	61	214	34	309	50	231	28	309
		構成比	20	69	11	9	16	75	9	7
全業種総合	売上	サンプル数	80	218	11	309	76	221	12	309
		構成比	26	71	4	22	25	72	4	21
	資金繰り	サンプル数	14	222	73	309	15	229	65	309
		構成比	5	72	24	▲ 19	5	74	21	▲ 16
	業況	サンプル数	31	185	93	309	20	203	86	309
		構成比	10	60	30	▲ 20	6	66	28	▲ 21
	売上	サンプル数	172	307	254	733	141	354	238	733
		構成比	23	42	35	▲ 11	19	48	32	▲ 13
	採算	サンプル数	88	347	298	733	76	379	278	733
		構成比	12	47	41	▲ 29	10	52	38	▲ 28
全業種総合	仕入単価	サンプル数	35	188	510	733	35	252	446	733
		構成比	5	26	70	▲ 65	5	34	61	▲ 56
	販売単価	サンプル数	198	451	84	733	162	481	90	733
		構成比	27	62	11	16	22	66	12	10
	従業員	サンプル数	212	497	24	733	201	503	29	733
		構成比	29	68	3	26	27	69	4	23
	資金繰り	サンプル数	40	512	181	733	34	524	175	733
		構成比	5	70	25	▲ 19	5	71	24	▲ 19
	業況	サンプル数	77	403	253	733	59	423	251	733
		構成比	11	55	35	▲ 24	8	58	34	▲ 26

集計表(トピックス)

製造業

原材料の高騰、ナフサ系の油の入手困難(高騰)。【製造業】

受発注の状況。【製造業】

売上の減少。【製造業】

イランVs米の先行不安。【製造業】

原材料価格変動絶縁材料生産中止等の報告アリ売り上げ低迷。【製造業】

先行き不透明感。【FA機器の制御盤設計制作】

今後も世界情勢をみると好転するとは思われない。【インサーキットテスター】

先が見えない。【エンボステープニングサービス】

円安によるコスト増。【オイルレスブッシュ】

不況を感じる。【キャンピングカー製造販売】

先行き不透明。【ゴムパッキン加工】

イラン・アメリカ(トランプ)戦争以降仕入原材料の急上昇による採算の悪化。【ジャズポップコーン】

潤滑油が入ってこない、材料費や工具代の高騰。【シャフト、ベアリングケース、ブラケット等々】

油滑油・刃物・材料等々の高騰。【シャフト・ベアリングケース・ブラケット等】

中東情勢の不透明化。材料高騰及び調達難。【パッシブ除振台・アクティブ除振台・防振装置・各種防振ゴム・制振材・吸音材・除振工事・防振工事・制振工事・除振コンサルタント・振動測定及び解析】

原油が不足しシンナー等の材用不足により、大手企業の生産がストップしている。【バフ研磨、TIG溶接、他】

イラン問題により材料入手困難。【プリント基板】

仕入価格の上昇率。【プリント基板設計】

ホルムズ海峡封鎖に伴う原油由来品の調達難による仕入れ価格高騰、原材料不足による影響が大きく、今後の見通しがつかない。主材料、副資材の発注はしているものの、入荷時期が未定の状況が続いている。

【プリント配線基板の設計、製造】

半導体設備関連を取り扱っている客先は好調の様です。【レーザー溶接】

材料の不足(トランプ)。【印刷業】

従業員不足、材料費高騰。【羽根車】

仕入単価の向上、原材料の出荷制限。【化粧品製造業】

中東情勢に伴う仕入単価上昇、供給不安。【家庭用換気扇等】

大手取引先の受注は継続的に減少傾向で、新規の取引先は需給の波が大きい。人件費の割合が大きいので、継続的な賃上げは維持しているが収益率がなかなか上がらない。【各種製品の加工、検査及び包装】

地政学リスク。【角型紙管、ペーパーアングル製造】

中東問題により部材の仕入が困難になってきている。【基板実装・組立】

見通し不明瞭。【機械部品製造】

景気感?好不況感の感触。【金型部品、設備部品、治工具、設計製作】

受注状況が、顧客で明暗が分かれている。【金属の切削加工業(アルミ・ステンレス等)】

材料等の不足。【金属加工業】

中東情勢悪化の懸念。【金属加工業・装置組立・電気配線】

良い話を聞かない。【金属機械部品加工業】

採用苦戦。特に理系人材。【金属製品接合】

材料費は高騰する一方、販売価格に転嫁できないこと。【金属表面処理の委託加工】

油がなくて仕事が出来ない。【金属部品の切削加工】

油が調達出来ないので仕事が出来ない。【金属部品の切削加工】

円安・中東情勢による仕入れ価格上昇。【金属部品加工】

中東情勢の悪化で先行きの不透明感が高まりつつある。景気全体が下振れするリスクがある。【空圧バルブの製造・販売】

採算悪化傾向により設備投資ができない。老朽化した設備を修理しながら使用しているため、効率化の改善も難しい状況。【建設機械製品(シールド機、スチールセグメントほか)】

中東情勢の悪化がいつまで続くのか。シンナー・塗料等の入荷制限価格の爆上がりで、経営の先行が心配である。(受注はあっても塗料が出来なくなる状況になりかねない)。【工業塗装(医療機器・航空計器・宇宙関連・望遠鏡etc精密機器)】

景気は低迷しており、少しずつ受注が減っている。【工業用製品】

仕入れ単価の上昇。【鋼構造物加工】

石油製品の値上りすぎ。【合成樹脂加工】

中東情勢の不安定化によって資材調達が不安定。【産業用モータ制御装置の製造・販売】

石油製品の供給安定と価格の適正化が課題かと感じています。【産業用電子応用機器設計・製造、防犯機器販売】

中東情勢影響の不透明さ。【産業用油圧機器】

世界情勢による先行きの不安。【紫外線平行光照射装置の、開発、設計、製造】

仕事がなかなか入ってこない。【試作部品】

受注先からの今年度の内示は減収傾向となっている。中東問題が影響していることは明白であり、油等の仕入にも量、価格面で大きく影響が更にでてくると思慮される。【自動車部品製造業】

中東情勢の影響から機械加工油等高騰による経費増加。【自動車用オイルフィルター外装部品】

中東情勢による不透明感で先行き見通しできず(販売及び資材調達)。【自動車用オイルフィルター部品の製造・販売】

中東情勢による仕入原価の高騰。【自動包装機械・省力機械及び包装プラント、システムの設計・開発・製造・販売】

昨今の中東情勢に加え、賃上げに伴う国内の物価上昇の影響により大幅な仕入原価の上昇が今後見込まれている。しかしながら、顧客からはコストダウン等の強い要請があることから、案件によっては損失覚悟での対応を迫られている。【自動包装機械・省力機械及び包装プラント、システムの設計・開発・製造・販売】

従業員不足による業務負担率の増加及び属人化が顕著。【受託開発業務及び少数生産】

まず樹脂材料がない、中東問題で。【樹脂加工】

印刷業界全体として、今までの印刷物による売上は減少するだけなので、多角化・業態変革に具体的な計画を立てて取り組むことが必須となっている。【商業印刷物、事務印刷物、出版印刷物】

石油事情による資材の値上げ不足。【消防被服製造卸】

不景気を感じる。【省力化機器の設計製作】

せっかく高市さんで雰囲気良くなって来たのに、トランプのイラン攻撃で最悪。【置製作】

原材料の急激が高騰と先行き不透明感による景気後退を見越しての買い控え。【食品加工機械製造販売】

中東情勢不安定化による材料単価値上げ、入荷困難。【真空成型加工】

中東情勢悪化による輸出減少と石油製品の価格高騰及び供給不安。【水産惣菜製造販売】

材料の上昇と中東情勢。【制御盤の制作やケーブル加工】

去年の同月があまりにもひどかった。それに比べると今期は順調の予定だ、作業員不足でどこまで仕事量をこなせるかが勝負だ。【制御盤製作、装置、機械、設備電気工事】

仕入れ単価の上昇。【生コンクリート】

取引先の事業再編等、お客様の新規設備投資の減少。【生産設備機械・装置の設計・製造】

まだまだ景気が上向ききっていないと感じております。【精密機械金属加工】

仕入れの価格高騰。【精密板金加工業】

大手企業の設備投資が活発ではない。【測定機】

受注単価が高くなってる。【卒業アルバム制作】

この約2～3年の物の動きが悪いと感じている。そこに中東情勢(石油)の問題が被さってくると、さらに得意先の動きが悪くなると想定している。【段ボール製函紙器一式・包装資材、段ボール家具】

物価上昇に起因する景気の低迷。【段ボール箱】

仕入れ単価の上昇。【超硬切削工具】

原材料高の経営へのインパクトが大きい。【抵抗溶接機】

5月以降の受注減による資金繰り悪化。【電気機械器具製造業・ワイヤーハーネス製造】

イラン戦争の影響と仕入額上昇に加え、受注不振であり先行き不透明。【電子回路設計、製造、販売】

これまでは顧客の部品、材料の在庫調整により受注・売上が低迷したが、年明けより在庫調整が解消に向かい、受注の回復が顕著となった。来期(当社5月決算)には売上が上昇すると予想されます。【電子部品製造販売】

中東情勢の先行き不透明感。【電池部品(ガスケット・ボウシンリング)】

有機溶剤など原料がナフサ由来の製品の入手が困難であることから、製品製造への影響あり。【電力機器、配電機器、制振・制音デバイス、精密デバイス】

中東情勢における原油価格の高騰・原料不足。【発泡スチロール加工・断熱パネル製造】

各種エネルギーや消耗材の価格高騰、入手困難に加え、設備コストも比例して高騰しており、税政策など実態に合った施策を期待したい。【半導体製造装置向け板金製品の製造】

物価高による様々な経費の増額。【半導体製造装置設計】

営業職の採用が困難である。【臨床検査薬の開発、製造、販売】

仕入単価上昇分を価格転嫁できていない。【紐やゴム紐】

新規顧客の開拓を進める、半導体関連の景気が良い中で、別分野への展開も含め進める。【表面加工処理サービス】

特にこのところのイラン情勢で不織布自体の高騰とイベントの内容が…無駄な出費を抑えている感じです。戦争が早く終戦して頂くことを期待しております。【不織布製品の企画製造販売】

円安が何時迄継続するのか、私の感覚では1ドル120円前後が望ましい。【無線機器・オーディオ機器・カラオケ機器の設計開発販売】

全てに対し、物価高。【銘板類】

仕入価格の高騰がいつまで続くか、不安。【木箱の製造】

中東情勢により仕入れ価格の上昇と部品等の確保。【量計、ホース継手、熱交換器、配管継手、集合配管、オゾン発生器】

建設業

資材の不足による工事の受注停止が懸念。【建設業】

コロナ過に低利で目いっぱい借り入れが出来たため資金繰りは問題ないが資材等の値上がり元請けの発注単価に反映されるのに間に合っていない。それが施工費を圧迫していて、従業員や下請け職方の賃上げが出来ない。【建設業】

中東情勢の混乱による不安定感が大きい。【建設業】

エネルギーの高止まりによる交通費の上昇。【建設業】

材料費の高騰に対して、単価があげられない。【建設業】

中東情勢不安関連による部資材の値上げ、仕入状況について

1. 部資材について:中東情勢不安により、原材料の調達不調、製品供給の制限等が起こり、各メーカーでは、部資材、製品価格の値上げ、欠品等が発生している。(末尾に直近の部資材状況記載)
2. 部資材等の価格高騰、不足による影響、余波:資材高騰、不足により、建築現場において、今後、部資材の「盗難」が発生する虞あり。情勢不安、混乱等に乗じて、供給を作為的にストップさせ、在庫を一斉処分している「悪質なメーカー」がある。今後、長引く部資材高騰や欠品、不足等により、建築ストップも起こり得ることを不安視し、住宅建築、住宅購入を躊躇、見合わせる顧客も一部に現れ始めている。
3. 政府による対策が急務:部資材等の価格高騰が長期化することにより、便乗値上げや、在庫処分など、今後、ますます悪質な行為を行う業者が増え、事態が悪化する可能性が高い。早期に政府による価格制御のための対応策が必要と史料。

【土地の分譲、販売、仕入、・建売住宅の分譲、販売、住宅および住宅以外の建築物の建築請負、不動産売買、仲介、賃貸、建築設計・監理、インテリアコーディネート、リフォーム、エクステリア等】

購買意欲に変化は感じないが原料不足による販売機会損失が起きている。人員不足だが下期にかけて現状が継続する場合採用計画の見直し必要あり(期初計画より減など。【エクステリア、住宅設備等】

仕入れ高騰。【エクステリアの工事 販売】

材料確保困難。【エクステリア施工販売】

仕入価格の上昇。【カーテン・カーペット】

中東の影響で塩ビ、塗料関連で建築工期の延期。【クリーンルーム設計施工・居宅介護支援事業】
中東情勢による各現場の遅れ。【ダクト製造】
従業員を補充したいが仕事自体が不変なので募集できない。【テナント・工場の間仕切作業】
中東情勢により依頼を受注、施工できない。【ポンプ、送風機のメンテナンス】
ナフサ不足。【リフォーム】
受注現場の減少。【リフォーム業】
仕入材の値上り。【外構工事一般】
原油輸入問題で、原材料を仕入れにくくなっている。値段も大幅に上がっていて、顧客に転嫁しきれぬのか？消費が冷え込むのではないかと不安に思う。【管工事】
中東情勢に伴う資材の不足、価格上昇。【管工事・電気工事】
ナフサ関連の仕入在庫不安定、仕入価格上昇。【給排水衛生設備工事、ビル管理】
国際的な情勢による物価上昇、資材不足。【給排水衛生設備工事・空調換気設備工事】
資材の高騰。【空調設備工事】
建設資材価格の上昇、一部資材調達が困難となったことにより、今後業績の悪化が想定され、相応の危機感を持って対策にあたっている。【建設、遺跡発掘、リフォーム、清掃、土木業】
今期は長期間工期の完成件数が多かったため、完成工事高が大幅に増加し、最終利益も増加したが、次年度以降の受注が大幅に減少しており、完成工事高も減少し業績悪化の見通しとなっております。現在の世界情勢も含めて設備投資が増加する見込みもなさそうで、今後の動向が心配であります。【建築・土木の施工】
中東情勢により建築資材の調達不能による工事の中止・延期が経営に大打撃を与えている。【建築物の新築、増改築工事の設計監理・施工管理請負業務】
中東問題での材料不足。【建物の外装】
ナフサによる資材不足。【建物建築工事】
世界情勢が落ち着いて欲しい。【工場、公共、事務所、施設、住宅、リフォーム】
あらゆるものが値上がりしていく中で継続的にかかる設備保守費用を上げる提案は難しい。法改正で価格交渉権をうたってもあくまで交渉権なため、選択の自由は当然客先にある。交渉をした結果、価格の安い保守会社(内容の質を下げる・外国人労働者を使用している)等を探してきて変更されてしまうため交渉とは名ばかりで意味がない。ネットやテレビで「よくなっている」というのは、わずかな大手企業だけで零細企業は板挟みでどんどん疲弊している。【消防設備業】
原油不足による資材不足や価格の上昇。【厨房内機器入替や板金修理、厨房設備】
世界情勢先行がよめない不安感あり。【造園・土木工事】
人材不足が顕著、単価の引上げが難しい。【造園業】
公園緑地の維持管理にかかる予算が増えたような気がします。【造園工事】
見積書はたくさん作りますが、なかなか受注のお声がかかりません。【造園工事業】
案件の着工延期や失注が増えている。【大工工事業】
中東情勢の懸念。資材の不足。【大工工事業】
原油由来製品の品不足の影響で、建設現場の進捗が悪化または止ってしまい、売上高が下がってしまったり、建設作業員や技術者の仕事が確保できない状況になってしまう懸念があります。また、働き方改革や技術者不足でゼネコンの受注量が2割程度は下がってしまっている状況ですので、それも伴って建設技術者や作業員が過剰状態になってしまっています。【鉄筋工事】
物価高。【鉄道】
収益率の低下。【電気・空調設備工事】
働き方改革等に伴う社員成長の遅れ。【電気工事】
雇用状況。【電気工事】
中東情勢による受注の滞り。【電気工事】
仕入れ単価の上昇が止まらないので見積が難しい。【電気工事】
今後、中東情勢緊迫化の継続により新規現場契約がどうなっていくか。【電気工事業】
従業員を増やせれば、売上も増加させられるだけの引合いはあり、景気は良い方向だと考える。【電気工事業】

材料の高騰と従業員不足。【塗装工事業、防水工事業】

石油製品及び輸入製品の供給が不安定の為仕事の住中にも影響があり。【道路工事】

ナフサ不足により建築業に打撃あり。【内装業】

今後、ナフサ不足の影響による、材料入手困難。【内装工事】

景気の冷え込み感がずっと世の中的に続いている。【内装工事】

ナフサ不足のためなのか、建材や接着剤が手に入らず工事を完成できない事が増えるかも知れません。【内装工事】

石油化学加工品の資材高騰、不足。【内装工事業】

材料費、諸経費の高騰。【内装工事業】

中東情勢の悪化・工程未定、中止・資材不安定。【内装仕上げ】

戦争による材料不足、仕入価格の上昇による現場減少。【内装仕上げ工事】

小売業・卸売業

戦争の影響をこれから受けると予想。【卸売業】

仕入れ価格の上昇。【卸売業】

お客様の高齢化。【卸売業】

仕入先のネット販売、物価高のため個人消費を抑制。【小売業】

品不足、注文した商品がほとんど欠品のことが多い。販売価格の上昇。【小売業】

個人消費の低迷が長引いている。商品原価は上がるが、売価には反映させづらい。【小売業】

インバウンド、浅草ばかりではない。赤坂、神田、横浜等、連休でもないのに、外国人が目立つ。朝から飲食等に並んでいる。働いている人も、ベトナム、台湾、等の人が多い。出稼ぎに来ているのかな。株高も6万円をこえているが日本人にとっては何か不安な気持ちである。業の組織も減少している。1/5や1/8である。昭和50年頃の景気はどこへ行ったやら？これが時代か？外国が豊かなのか日本がインフレなのか、すごくおかしいと感じます。【小売業】

業種的に必要としなくなる。【小売業】

原油高。【LPガス、灯油、リフォーム】

賃上げのスピードに、売上利益がおいついておらず、代金の回収が困難になることが予想される。【LPガス、灯油、住宅設備機器】

中東地域問題で仕入れ価格の急騰。【LPガス販売、住宅用設備機器工事・販売、】

中東情勢の影響で仕入商品や資材の価格が高騰しているが、すぐには販売価格に反映できない。【エアコンプレッサー及びその周辺機器の卸売（一部自社で製造）】

桜祭りの晴れた日は、大変来客もあり売り上げもあがりましたが、普段は目的なく立ち寄りお客様は少ないです。【オーダーカーテン、絨毯、インテリア小物】

仕入価格とにらめっこをしてそれなりにやりくりしています。（他のスタンド価格みながら）。【ガソリンスタンド】

仕入れ単価が上昇を痛感。【スクールバス車両売買、交通安全教育・講習】

仕入れ価格の高騰お客様の買い渋り。【スポーツ用品】

景気感、好不況感の感触。【トヨタ新車販売】

中東紛争による原油高及び関連物資供給問題。【フォークリフト、クレーン車、高所作業車等特殊車両他のねじ類その他】

ペルシャ湾の問題で仕入れ価格が大幅上昇。【プロパンガス】

ナフサ不足とマスコミがさわぎすぎ。【衣料品】

厳しい。【家電小売】

中東情勢、物価高対応。【介護用食品及び医療機器の企画、製造、販売】

趣味の選択肢が増加し、流行り、廃りによる波を受けている。産業として衰退方向。【観賞魚用品】

倒産による販売先の減少が売上に影響している。【観賞魚用品】

仕入れ単価の上昇。【給湯・浴槽関係機器】

イラン戦争による原油不足。【健康食品】

引き続き売上不振が続いている。仕入、加工単価も上昇し、利益率も低下。市場価格の相場もあり、値上げ等の価格転嫁できないところも厳しい。【健康食品の小売、卸売。取扱商品／玉葱皮茶など】

中東戦争により商品の入荷困難な物がある。【建築材料販売】

中東問題による鋼材等への供給問題。【工業用ねじ類販売総合商社】

円高の長期により個人消費の減少と思われる。買入の先送りになっています。【再生土、黒土販売】

中東情勢で仕入れ価格値上、供給不可が出始めています。【産業用、工業用ゴム樹脂金属製品の販売】

新卒採用の状況悪化。【四輪自動車(新車・中古車)の販売、自動車の点検・車検・修理・整備等】

5月はさがみはらキャンペーンのおかげで持ち直したが、資材関連の入荷が滞っており、現場の方々に材料の提供ができない品物がある。【資材、雑貨、食品】

消費者の購買意欲をいかに促せるかが鍵。【自転車販売業】

前期と比較して微増ながら増収増益です。【自動車用品】

いずれも、ほど遠い感。【酒、たばこ、toto】

主たる業種は堅調ですが、新事業の開発の資金供給。【受託商社、シールドマシン部品、蒸気タービン部品、原子力部品等】

中東情勢によりナフサ不足が各メーカーで広がり商品が入荷されない。【住宅設備機器卸売業】

資材単価上昇及び入手難の恐れあり。【省庁向け資材・器材の企画開発・販売】

世界的な原油エネルギー供給体制の混乱による混沌と資材費高騰。【薪ストーブおよび薪ストーブ用煙突部材の輸入販売】

若い従業員の不足、特に仕入れ単価の上昇及び供給不足。【水上バイク販売修理】

仕入単価の上昇以上に資材関係(セロハン等)の価格上昇圧力が強い。【生花、園芸、花き関連資材】

橋本地域は、リニア新幹線関連の影響が、開発資産税の上昇に苦しめられている。弊社ではR5年とR7年の差が約100万円上昇した。【生鮮青果物卸売業】

中東情勢に起因する問題や物価高、金利などの先行きが不透明。【地方卸売市場(青果)の運営】

小さな会社レベルでの努力では好転させるのはほぼ難しい。耐え時かと思っています。【中古車販売】

不景気を感じる年々売上高が下がり続けている。【釣具】

ホルムズ海峡の戦争情態の継続で値上げが続いている。【伝動機器商社】

外回り営業人材を募集しても全く求人が来ない。【電子部品の卸売販売】

3月迄の受注状況は概ね順調であったが、世界情勢の急激な変換が今後受注の悪化に繋がる恐れがある。【非鉄金属材料・部品等の販売】

売上は、現在は順調だが、インフレの影響の買い控えなど。【物産品等】

小売店主としては、商品の最適状況としてのミックスが上記からも難しいと思われる。【米穀酒類食品雑貨 米飯調理パン菓子パン食パン】

トランプ政権のわがままディール、外交、侵略戦争、円安、物価上昇等からくる経済困窮・節約生活で食べる遊ぶ事を除き買い物控えによる顧客減少が甚だしく売上げも低迷している。街の中小企業並びに個人店、外国人経営者は色々な規制を押し付けられて廃業を考えている方も少なくない。雇用状況は雇えない、発注状況は必要な物以外出来ない、受注状況は本当に困っている方でないとか来店してくれない。【補聴器、メガネ、コンタクトレンズ】

飲食業・サービス業

アメリカとイランの戦争による先行不安。【その他のサービス業】

中東情勢による品薄、高騰での影響。【その他のサービス業】

物価、エネルギー価格の上昇による景気悪化懸念。【その他のサービス業】

新規の獲得が難しい。【運輸業・倉庫業・梱包業】

来店客が少なくなり、経営悪化。【専門・技術サービス業】

円安による物価上昇。【専門・技術サービス業】

請負業はきつい。【専門・技術サービス業】

不況の感じはなく、こちら側の積極性、チャレンジ精神がないだけだと思う。失敗を恐れずに悔いなく新しい事業の展開に進んでいきたい。【専門・技術サービス業】

税金が高い。【ERPパッケージ】

私個人は好況だが、世間は不況だと感じる。【FCサービス会社広報】

特定タスクの支援に限定したAI(LLM)に注目が集まり、汎用的かつ人の総合判断能力の情報処理化に成功した弊社AI特許の活用展開に苦労している。【IT・AIコンサルティング】

サブスク費用の高額化で収益が圧迫されてます。【VRアプリ開発、デザイン作成】

障害者雇用率の対策。【アウトソーシング事業、フラワーアレンジメント事業、ステーションナリー事業】

国際情勢の影響。【インキュベーションセンターの運営】

高齢化が進み若手人材不足が現状です。【エンジン修理】

個人消費が毎年減少している経営はどんどん悪化している今後経営していく上で店の運営を維持していくことが困難になってきている。【お好み焼き、もんじゃ焼き】

中東情勢の影響。【カーコーティング・钣金塗装】

売上の減少がひびきます。【カット・パーマ・カラー・エステ等】

グループ各社の収益悪化による収入の減少。【グループ各社の経理、総務事務代行】

イラン情勢によりプラカップやガソリンの価格高騰が心配なのと、この上夏の暑さが強烈で人出が減少するのではないかと考える。【コーヒーの移動販売】

新規顧客の来場が多くなってきた。【ゴルフショートコース運営】

当社の感触として、神奈川において輸出が減少している印象です。【こん包業】

客先案件が減少している。【ソフトウェア開発】

中東情勢の関係で資材が入ってこない為、先行きが不安。【ネイルサービス】

海外情勢による資材不足。【ビルメンテナンス】

仕入れ単価の上昇。【フランス料理の提供】

PC関連の価格が上昇、必然的にサービス価格をUPせざるをえない状況。【ブランドマーケティングコンサル、デザイン関連】

イラン紛争で起きた原油不足で、政府は、量は十分、市場は原油由来の原材料不足や値上げということで、不安定な経済になっている。【プレス機械関連の自動化・システム化と安全評価、品質保証活動】

物価高以外は特にありません。【ホームページ制作、チラシ制作】

建物の老朽化、仕入れ単価の上昇。【ホテル】

個人消費の冷え込み。【ホテル】

人手不足。【マテリアルハンドリングシステムの総合メンテナンス】

労務費、諸経費の上昇。【マンション管理員・清掃員業務受託事業】

景気感は昨年と同様に低空飛行状態だと感じます。客単価は低下か横ばいで増税や社会保険料の上昇により、お客様の収入がギリ貧となっていることの表れのようにです。雇用状況は長らくハローワークへの当社からの募集に対して、全く応募がない状況です。【ラーメン専門店】

物価が上がる中、一般管理費の上昇は避けられないが、販売価格を上げることがなかなかできない。広告費の値上げに理解を得ることの難しさを感じる。

また、スタッフの定着がここ数年、非常に苦しい。給与を含む労働条件の改善をしたいが、収益率が下がる中、実現が難しい。【ラジオ局】

急な客数の減少。【ワインビストロ】

人件費の増加。【一般貨物運送事業】

物価の高騰・消耗品の買い入れ等。【一般貨物輸送】

理美容の専売品化粧品がディスカウントショップで販売している。商品によっては我々の仕入れ価格よりも安く取り扱っているのが多くなった。【一般理美容】

原材料費の高騰を売価に反映出来ないこと。【飲食提供】

雇用状況→不足／受発注状況→不変。【運輸業に付帯する、検査・梱包業】

物価上昇に対し賃金が上がらない。【介護】

契約して働いている人材が高齢化しているが、新しい人材発掘に苦慮しています。【栄養指導、栄養コンサルティング】

建設業の材料不足問題。【会計事務所】

消費低迷が続いている。さらにホルムズ海峡封鎖の影響で中小企業は大打撃。石油関連の商品が値上げや欠品、情勢が悪化しているので、今後はもう手にはいらない可能性が高い。【海鮮居酒屋】

やめるところが増えてきた。【観葉植物のレンタル業】

荷主企業の動向が不透明で不安。【機械部品、工場間輸送他】

消費二局化エンゲル係数増加。【給食、仕出し弁当】

労働者の労働意欲(お金を貪欲に求める姿勢)が下がってきている。【居酒屋】

原材料、調味料、等全て値上り。【居酒屋、酒、刺身、煮物、揚げ物他】

雇用状況。【金融、保険代理店】

必要なスキルを持った人材の不足。【経理・人事業務のシェアドサービス】

注文数が激減。【警備業】

ホルムズ海峡封鎖による燃料、及びオイル製品不足など。【建設機械修理】

外注先(設備設計事務所)が不足。【建築設計・監理】

ナフサ供給不足による工事中止、延期等。現場で直接影響が出ている。建材メーカー各社より不足の旨アナウンスが出ているため、建設業全体に影響があり、設計業にも大きく影響を及ぼしている。【建築設計業】

値上げのブームメントにあるようです。値上げのすすめもあります。【建物管理業】

マンション等の建設に関し石油製品の上昇につき、トイレ、バスタブ等の品不足(原油の不足)のため建設工事ができない。又は工事単価の上昇が見られる。【権利調整、不動産仲介】

不動産価格の上昇。【戸建賃貸】

物価上昇。【公認会計士・税理士事務所】

資材、機材、消耗品の高騰が利益の減少になっている。【高圧洗浄作業】

中東問題の長期化による原油等の高騰物価高。【産業廃棄物収集運搬処分】

イラン情勢により、仕入れ単価の上昇や、石油由来の商品に対する在庫不足が懸念。また各種製造工程、製品及び廃棄物の廃棄に影響があり当社の売上に直結する。また、仕入れ単価の上昇は続いており、採算の面での圧迫を余儀なくされている。雇用については、ドライバー不足が顕著。【産業廃棄物処分業及び収集運搬業】

飲食業は海外よりの食材の仕入が多く円安影響大。他に利上げの問題。【仕出し、ケータリング、宴会】

先行きの不透明感。【司法書士】

原材料費、人件費等の上昇への対応が追い付かない。【自家製餃子の製造及び販売】

材料が仕入れられない。部品価格の上昇。【自動車板金塗装 整備 販売】

アメリカ、イラン、ホルムズ海峡。【自動車部品】

AIの市況や著作権周りの法律の整備。【写真撮影、動画撮影】

取引先の廃業が増えつつある。【社会保険労務士】

仕入単価の上昇。【酒類、料理】

燃料、物価高騰、円高荷主も販売するものが、仕入れできず、配送にも影響します。ドライバー不足の上トラックの経年故障で修理などの時に、部品調達ができなかったり、ディーラーでもオイル交換すらできない事態になってきています。現状維持が、いつまで続けていけるでしょうか。【住宅資材 保安品】

物価高によりテナントの客数減傾向。【商業施設運営管理】

人件費が上昇している。【障害福祉サービス】

コロナ後よりも不景気。【食堂・ケータリング事業】

運転手の募集をしているが全然来ません。今居る運転手が定年を迎えたら廃業ですね。【食品、雑貨】

新規顧客の獲得に苦戦。【人材サービス業】

採用環境が年々厳しくなっている。【人材派遣業】

お客様はAIで調べている事。【整体院で整体の施術・ダイエットサポート】

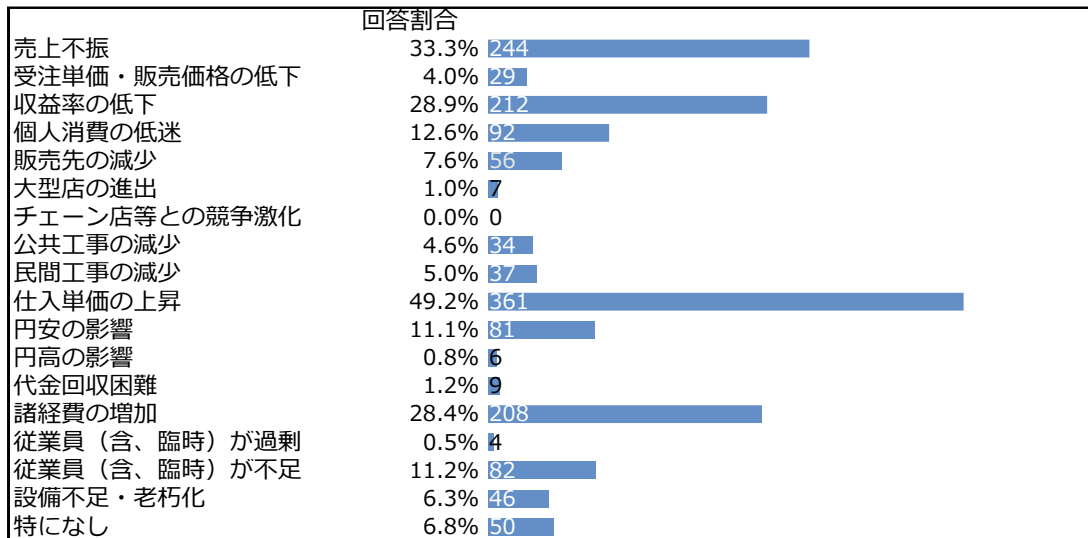
仕入単価の上昇。【生ジュース調理販売、犬服製作販売】

人件費の高騰が経営を圧迫しつつある。【税理士】
AIの台頭。【税理士事務所】
人材育成。【大学案内等発送代行】
円安による資材の高騰。【賃貸管理仲介・売買仲介・宅地開発と分譲】
中東問題で材料不足・材料費の高騰。【展示ディスプレイ・サイン・商業施設・設計・施工・管理・運営業務】
当社のユーザである電子機器業界は、新製品の投入が減少して活気がなくなっている。【電子機器開発設計、自動組立機開発設計】
中東情勢の長期化。【特殊車両修理】
仕入価格の上昇による経費の増加。【廃棄物】
燃料製品の不足。【廃棄物収集運搬処理】
お客様の生活費などの物価高騰による影響。【美容室】
世界情勢による物価高が影響する不況。【不動産】
物価高であること、資材不足による納期の見込みが読めないこと、借入金利が上昇していること、これらを商品価格に転嫁しても物価上昇で消費者の購入マインドが低下していることで事業者としては厳しい時期となっております。【不動産】
相続案件が多く、時間がかかる。【不動産仲介】
賃貸建物のリフォーム代が高くなっている。【不動産賃貸、表示登記申請手続】
修繕費の上昇。【不動産賃貸業】
石油ショックによる資材高騰による消費者の買い控えが更に加速している。【不動産買取再販・仲介・管理】
売上不振の可能性あり。【不動産売買】
物価高騰、資材高騰、金利上昇による収益が悪化。【不動産売買】
材料費の高騰。【不動産売買、賃貸、仲介、管理】
ホルムズ海峡封鎖における油脂系の入手不安と価格高騰。【部品や一般雑貨の輸送や保管】
予測が難しい状況で予測をするため実態よりはネガティブな景気予測へ流れやすくなっている気がする。【福祉】
雇用の状況が厳しく、退職も多いが紹介会社の単価が際限なく上がり続けている。【保育事業】
雇用状況。【保険商品】
円安に於ける全般的な物価高の状況、個人消費の警戒及び低迷、販売先の減少。【墓参代行、墓石清掃、墓石クリーニング、墓石コーティング、墓石メンテナンス、重要文化財、文化遺産の石造物の特殊清掃、埋葬業務】
同業競争激化。【訪問看護】
イランとアメリカの関係で資材高、不足、輸出の減少。値上げがすまない。【輸出、国内の梱包、木枠梱包、パレット作成】
人材不足。【幼稚園】
総てに低迷。【理容】
軽油価格・石油関連製品の価格上昇。【旅客運送事業】
イラン情勢による原油単価の不安定さ。【旅行業】
雇用人数は、現在は悪くはないが、先を見据えると次世代を担う若い層が足りていない。【老人福祉施設】
物価高。【鍼灸整骨】

経営上の問題点

単純集計

経営上の問題点(3つまで回答可、n=733)



製造業

今回調査を見ると、「仕入単価の上昇」が大幅に増加し、「円安の影響」、「売上不振」も増加した。減少したのは、「受注単価・販売価格の低下」、「従業員が不足」、「設備不足・老朽化」、「販売先の減少」であった。やはり中東危機による資材不足の影響を受けている事業者が多いようである。

	R7年4～6月 n=212	R7年7～9月 n=175	R7年10～12月 n=148	R8年1～3月 n=144	今回調査 n=181
売上不振	49.5%	50.9%	43.9%	42.4%	45.3%
受注単価・販売価格の低下	9.4%	10.3%	6.8%	11.8%	1.7%
収益率の低下	35.8%	29.1%	33.1%	34.0%	36.5%
個人消費の低迷	3.8%	4.0%	3.4%	5.6%	3.3%
販売先の減少	9.4%	8.0%	8.1%	11.8%	6.1%
大型店の進出	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
チェーン店等との競争激化	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公共工事の減少	2.8%	2.3%	2.7%	1.4%	2.2%
民間工事の減少	4.2%	2.3%	3.4%	2.8%	3.9%
仕入単価の上昇	47.6%	44.0%	46.6%	43.1%	65.7%
円安の影響	10.4%	6.9%	9.5%	9.7%	15.5%
円高の影響	2.4%	1.1%	1.4%	1.4%	0.6%
代金回収困難	0.0%	0.6%	0.7%	0.7%	0.0%
諸経費の増加	23.6%	20.0%	22.3%	28.5%	25.4%
従業員(含、臨時)が過剰	0.5%	1.1%	0.7%	0.7%	1.7%
従業員(含、臨時)が不足	19.8%	26.9%	25.0%	25.0%	7.7%
設備不足・老朽化	18.4%	24.0%	20.3%	25.0%	7.7%
特になし	1.9%	4.0%	1.4%	4.2%	5.0%

経営上の問題点

建設業

今回調査を見ると、「仕入単価の上昇」が大幅に増加し、「売上不振」「公共工事の減少」も増加した。減少したのは、「受注単価・販売価格の低下」、「従業員が不足」、「設備不足・老朽化」、であった。製造業同様、資材不足の影響が深刻化しているようである。

	R7年4～6月 n=139	R7年7～9月 n=140	R7年10～12月 n=117	R8年1～3月 n=104	今回調査 n=148
売上不振	27.3%	22.9%	22.2%	22.1%	29.7%
受注単価・販売価格の低下	11.5%	11.4%	10.3%	12.5%	5.4%
収益率の低下	25.2%	30.7%	17.1%	24.0%	27.7%
個人消費の低迷	3.6%	5.7%	5.1%	2.9%	4.1%
販売先の減少	5.8%	2.1%	2.6%	5.8%	6.1%
大型店の進出	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.7%
チェーン店等との競争激化	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公共工事の減少	15.8%	10.0%	14.5%	10.6%	16.9%
民間工事の減少	15.1%	15.0%	18.8%	16.3%	16.9%
仕入単価の上昇	49.6%	47.1%	52.1%	42.3%	64.9%
円安の影響	2.2%	2.1%	2.6%	4.8%	4.7%
円高の影響	0.7%	0.0%	0.9%	1.0%	0.0%
代金回収困難	1.4%	2.9%	0.0%	2.9%	2.7%
諸経費の増加	21.6%	23.6%	19.7%	21.2%	18.2%
従業員(含、臨時)が過剰	0.7%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%
従業員(含、臨時)が不足	48.2%	52.9%	50.4%	45.2%	20.9%
設備不足・老朽化	7.2%	7.9%	7.7%	7.7%	0.7%
特になし	5.0%	4.3%	6.8%	8.7%	5.4%

小売業・卸売業

増加しているのは「仕入単価の上昇」、「円安の影響」、「販売先の減少」で、減少したのは、「従業員が不足」、「収益率の低下」、「受注単価・販売価格の低下」、「設備不足・老朽化」、であった。他の業種と異なり、業況は改善傾向であり従業員不足も一旦解消されているようである。

	R7年4～6月 n=98	R7年7～9月 n=105	R7年10～12月 n=75	R8年1～3月 n=74	今回調査 n=95
売上不振	43.9%	39.0%	32.0%	37.8%	34.7%
受注単価・販売価格の低下	7.1%	5.7%	5.3%	5.4%	4.2%
収益率の低下	25.5%	24.8%	24.0%	28.4%	16.8%
個人消費の低迷	28.6%	38.1%	38.7%	33.8%	31.6%
販売先の減少	14.3%	17.1%	24.0%	10.8%	17.9%
大型店の進出	2.0%	1.9%	0.0%	1.4%	3.2%
チェーン店等との競争激化	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公共工事の減少	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	2.1%
民間工事の減少	2.0%	3.8%	6.7%	2.7%	3.2%
仕入単価の上昇	42.9%	40.0%	38.7%	40.5%	45.3%
円安の影響	13.3%	10.5%	12.0%	17.6%	18.9%
円高の影響	4.1%	2.9%	0.0%	2.7%	2.1%
代金回収困難	1.0%	3.8%	6.7%	1.4%	3.2%
諸経費の増加	24.5%	21.0%	28.0%	23.0%	22.1%
従業員(含、臨時)が過剰	2.0%	0.0%	2.7%	1.4%	0.0%
従業員(含、臨時)が不足	20.4%	14.3%	20.0%	20.3%	1.1%
設備不足・老朽化	8.2%	9.5%	12.0%	4.1%	3.2%
特になし	5.1%	5.7%	2.7%	4.1%	5.3%

経営上の問題点

飲食業・サービス業

増加しているのは主に「仕入単価の上昇」、「円安の影響」、「個人消費の低迷」、「諸経費の増加」、であった。減少したのは、「従業員が不足」、「設備不足・老朽化」、であった。特に諸経費の増加が収益率の改善の障害となっているようである。従業員不足は小売業・卸売業同様に緩和されてきている。

	R7年4～6月 n=321	R7年7～9月 n=303	R7年10～12月 n=267	R8年1～3月 n=241	今回調査 n=309
売上不振	30.2%	23.8%	28.1%	26.1%	27.5%
受注単価・販売価格の低下	5.9%	6.6%	8.6%	4.6%	4.5%
収益率の低下	25.5%	29.0%	24.3%	29.0%	28.8%
個人消費の低迷	15.3%	14.9%	20.6%	12.9%	16.2%
販売先の減少	6.9%	9.9%	7.5%	6.2%	6.1%
大型店の進出	0.6%	1.0%	0.7%	0.8%	1.0%
チェーン店等との競争激化	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公共工事の減少	1.6%	3.3%	0.7%	1.7%	1.0%
民間工事の減少	1.6%	2.0%	1.5%	0.4%	0.6%
仕入単価の上昇	32.1%	33.3%	34.5%	28.2%	33.3%
円安の影響	4.0%	2.6%	5.2%	3.7%	9.1%
円高の影響	1.2%	1.3%	1.9%	0.8%	1.0%
代金回収困難	2.2%	1.3%	1.1%	0.0%	0.6%
諸経費の増加	34.3%	35.0%	28.8%	29.5%	36.9%
従業員(含、臨時)が過剰	0.9%	0.7%	0.0%	0.8%	0.3%
従業員(含、臨時)が不足	31.8%	32.0%	30.3%	29.9%	11.7%
設備不足・老朽化	15.6%	17.2%	15.0%	18.3%	9.1%
特になし	9.7%	11.6%	11.6%	10.4%	9.1%